

第38回 桜小学校区 男女 児童

バドミントン大会

主催 桜小学校区体育振興会  
 参加資格 桜小学校在籍の男女 4年生～6年生  
 大会日 平成 28年 2月 21日(日)  
 会場 坂本中学校 体育館  
 集合 09:15

参加者募集

"頑張れ"  
メダルがもらえるぞ

練習も一回程度行います。  
2月 7日 9時～12時頃まで 坂中体育館で

参加賞だよ

(これと同じ様なものです)



申し込み：2月14日（土）までに 子供会又は各町体育指導員まで

坂本1丁目	矢 込 唯 男	825-5362	坂本5丁目	馬 場 孝 男	822-8064
坂本2丁目	池 田 正 英	821-3466	坂本6丁目	坂 上 浩 二	827-0656
坂本3丁目	小 谷 憲 治	824-1083	坂本自治会	昆 心 一	823-4318
坂本4丁目	樋 田 雅 幸	824-6122	プランヴェール	長 田 一 孝	824-3004

お好きな  
時間で  
どうぞ

～書道教室 筆子屋 昨年11月OPEN!～

気軽に《書道》始めてみませんか？

新規生徒  
さん  
受付中!

◎小学生～ご高齢の方まで初心者歓迎 ◎月謝=小・中学生 3,000円 高校生以上 4,000円  
 ◎稽古日=毎週火・水・木・土曜日 10:00～20:00 ※詳細はお問合せ下さい。

Tel & Fax 046(897)5416 ✉ fudekoya@jcom.zaq.ne.jp  
 書道教室『筆子屋(ふでこや)』 坂本町2-11 阿部方(坂本隧道手前)



\*\*同好会等の活動紹介とメンバー募集などにもこの欄をご利用下さい。(無料です) 商業広告の記載も承ります  
 5cm\*20cm 1000円 (求人広告は無料です)

ご意見・広告・寄稿は (fax) 827-8086 (メール) csc\_taka@yahoo.co.jp

お問合せ823-4181 編集責任者 斉藤隆親(連合町内会総務担当)

広報さかもと 2016年 2月号

発行者：坂本連合町内会

「閑話休題 広報さかもと について」

例年2月は連合町内会の主要行事も特になく、比較的静かな月ですが、今年には町内会長をはじめ、いくつかの活動団体の役員・委員の任期更新時期が重なっています。この広報についても当初予定の6年計画の最終年で新たな段階へ発展させるべき大切な年にしたいと思っております。

この広報が「存在を知ってもらう事」、「地域活動における一定の役割を認知してもらう事」、そして「利・活用してもらう事」という段階をへて仕上げとして、長く継続されていく仕組みに移行すべき時期になったと思います。

どんな仕組み？

1. 「広報さかもと」は坂本地区住民の所有物です。
2. 「広報さかもと」の編集権はあなたにもあります。(同時にちよっぴりの責任も)。

この二つの基本的な考え方を具体的にする仕組みなのですが

私は答えを用意してはいません、いやすべきでないと思います。

どう使うか、それは町民の皆さんが決めるべきことなのです。

皆様と共に試行錯誤をしていきましょう。

連町総務部長(広報担当) 斉藤隆親

2月6日(土) 初午祭 大六天神社境内稲荷神社

午前9時～午後3時(祝詞奏上は 11時より)

甘酒・蜜柑・お菓子等を用意して皆様のご参詣をお待ちしています

## ひたちなか市の「地震災害対策並びに避難所運営」について 視察研修報告

昨年11月に連町常任理事・顧問8名で茨城県ひたちなか市の震災時避難所運営と  
地域自治会との災害対策の連携等について研修をおこないました。

現在、坂本地区の避難所運営訓練等に関して、実際に災害経験のある自治会責任者の方の  
教授を賜り、意見交換を行ってより充実した訓練の指針とすべく計画されたものです。

### 1.ひたちなか市の主な被害状況

一部～全壊家屋	1236棟
避難者	9539人
避難所	68箇所
津波被害	沿岸部のみ 最大4.1メートル
床下床上浸水	187棟
死者	1名
重軽傷者	26名

### 2.災害対策上の重要課題

上下水道施設の被害甚大で復旧に約3週間

その間の避難所を含む一般家庭の生活用水の給水活動に苦勞・最も切実  
地域自治体との連携が非常に重要な効果を果たした。

非常食糧の確保と配給

ひたちなか市は1回限りながら補助金をだして地域自治会に備蓄食糧  
の確保を行っていた。その食糧を市(避難所等)へ提供してもらった

避難所の開設期間

約1ヶ月で市内全避難所を終了閉鎖できた。

住居被害が比較的少なく市営住宅などの対応力があつたため

### 3.自治会責任者との意見交換

避難所は殺傷事以外何でもあり それこそ泥棒から支援物資狙いまで  
最も印象的な言葉「行政を頼ってはいけません！ 何も出来ない  
と考えていたほうが良い」

## 鬼とは何か

古来、日本人は「自然の中に人智を超えた大きな力を持つモノが存在している」と信じていました。  
しかし、お姿を拝することがないので“お隠れになった身”の意味で“隠(カ)身(ミ)”→“カミ”とお呼びし敬って  
いました。カミがお姿を顕わされる時、天空に太鼓が轟き、幾筋もの光が輝く…つまり、“雷光”こそが、カミのお姿  
であると思っていました。それ故、雷鳴をカミナリ(=神鳴り)と呼び、注連縄(しめなわ)には稲妻を模した御幣(ごへい)  
を垂らすのです。

雷光は、カミがお姿を“隠しておられぬ”状態なので、これを“隠(オン)ヌ”→“オヌ”とお呼びして  
いました。この“オヌ”が変化して“オニ”になったといわれています。それで、雷様は太鼓を背負うオニとして描かれるのです。  
5～6世紀頃には、大陸から様々な文化と共に、仏教・道教・陰陽思想などが伝わってきました。  
これらの新しい文化思想と、日本のカミ・オニの信仰とは、互いに影響し合いながらも独自の発展を遂げました。そして、  
“カミ”とは感謝と共に敬い祀るもの、“オニ”とは恐れと共に敬い奉るもの、災いが起きぬよう願うものとされ、カミ  
とオニとは対極にあると信じられるようになりました。こうした中で、現在の鬼のイメージが、少しずつ形作られて  
いったのです。

鬼という字は、中国では“キ”と読み“霊(れい)”を意味します。“魂(たましい)”という字が“云(雲)”と“鬼”  
から成っているのは、死後は雲(くも)となり天に昇る霊を意味するからです。  
また、人が亡くなることを“鬼籍(い)に入る”と表すのも、このためです。  
やがて、“オニ”と“キ”は、同一のモノとみなされるようになり、得体の知れぬカミ・恐怖のカミ・崇る霊・邪しきモノ  
など全てが、鬼と書いてオニと呼ばれるようになりました。また、人であっても、恐ろしい本性を隠し忍ばせているもの  
を穩(オ)忍(ニ)→鬼と呼ぶようにもなりました。

鬼の性質や行動には、仏教文化が影響しています。寺院の屋根などには、方位の魔除けとして鬼面の鬼瓦(おにがわ  
ら)が置かれていますが、これらは仏の守護神としての役割を担っています。  
実は、守護神といわれる神々の多くは、元々インド神話の好戦的な神々や邪神であり、恐れと共に敬い奉られていた神々  
でした。つまり、かつては鬼であったわけです。それが、御仏の心にふれ、改心して護法善神となったのです。恐ろし  
い鬼の代名詞とされている、夜叉(ヤシヤ)や羅刹(ラセツ)も、それぞれ夜叉天・羅刹天といい、毘沙門天(ビシャモンテン)の眷属(け  
んぞく)として天部に属している善神です。しかし、インド神話に残る彼らの残虐な性質や非道な振る舞いは、鬼の恐  
ろしい特性として認識され、そのまま日本の鬼に受け継がれたのです。

鬼の容姿は、角の生えた頭部、大きな体、鋭い牙と爪を持ち、虎の毛皮をまとっているのが一般的です。この様な姿  
に成ったのは、当時の陰陽道の影響によるものです。  
明治以前の日本では、方位(や時間)を十二支で表していました。北は“子(ね)”東は“卯(う)”南は“午(うま)”西  
は“酉(とり)”となり、“丑(うし)”と“寅(とら)”の境界が北東に当たります。  
陰陽道では、北東には「良の金神(うしとらのこんじん)」と呼ばれる恐ろしい鬼神が在しており、多くの鬼が出入りす  
るため、これを鬼門(きもん)と呼び、万事に忌むべき方角としています。  
もう、お分かりになったと思いますが、“丑”→ウシの角と身体、“寅”→トラの牙と爪そして毛皮、まるで言葉遊びの  
ように、恐怖の象徴としての妖獣・鬼が創られたのです。

節分祭りのルーツは、平安時代初期から、宮中において旧暦大晦日に行われていた「追難(ついな)」「鬼遣(おにや  
らい)」と呼ばれる鬼払いの神事であるといわれています。黒衣に朱の裳を着け、四ツの金色の目を持つ面をかぶり、右手に  
矛、左手に楯をもった方相氏(ほうそうし)という、鬼払い役が大内裏を回ります。公卿は清涼殿の階段から援護として  
の弓を鳴らし、殿上人(でんじょうびと)らは振り鼓(でんでん太鼓)をふって厄を払うという儀式です。当時の夜は、  
真の闇深く恐ろしく、そこに鬼が潜んで居ると容易に信じられたことでしょう。鬼払いの神事により、逃げ惑い退散する  
恐怖の象徴・鬼。その姿が具体的であればある程、人々には安心がもたらされたのかもしれない。  
鬼とは、退治されるために、必要悪として創られた存在であったともいえるのです。

大六天神社

# 秋本塗装

代表 秋本利晴  
携帯 080-5465-9324

地元業者ならではの「信頼を大切に！」をモットーに頑張っております。  
塗装・リフォームのことならおまかせ下さい。お気軽に無料見積もり  
お申し付け下さい。

横須賀市坂本町6丁目30番地 TEL **046-801-1250**

家族葬ホール / 保冷安置室完備

## (有) 横須賀博善社

坂本中央プリエールホール  
坂本町6-16 (中央斎場入口)

24時間受付フリーダイヤル **0120-60-2089**  
TEL 822-2089 FAX 822-2625

<http://www.yokosukahakuzensha.jp/>

